

——革命運動にだけ必要なのではない——
金学校に結果をされた学生運動が二つの大会（十回大会と十二回大会）と現実の斗争ではなくしてかゝる転換の内幕は、学生運動の外だけではなく、日本の革命運動にとって心身の内幕をもつものである。そして現在激しい敵の階級的挑戦を迎えている労働運動にとっても特にそうである。

的的進んだ。そしてこの成功の由で労働者と学生の分離とか
ううところへこした。國にのつた彼らは一拳撲滅の攻撃、警戒をす
もし、労働者階級の意識を軽くみて、全然重にその罪と暴力す
ることを試みようとした。だがこの魔術には、彼らの方がかつ
てしまつたのだ。労働者の政治的斗争が開始された。勤耕斗争
から書籍法改悪紛糾斗争へ日本学生運動の転換は進められてい
く。
アルジョアシーなどの政府の政策の新しい性格を見ぬる裏面
することは、緊急な要件である。専門への適用、全学生の攻撃
を開始するためだ。挑発したことなど無事の「事件」による單純
的マルクス・レーニン主義とは異なる。敵対級の攻撃の階
級性を正しく把握し、労働者階級が学生への攻撃と自らの攻撃
として見抜き、学生のヨリを攻撃して立ち上るよ呼びかける
ことによって、学生運動へハブルジニア運動に対する効
仇も階級の指揮が確立されるのだ。

指導者たる先生連盟が、彼の階級的立場の内情を正確に察し、これに対する階級的觀念に基づいた斗争の下に労働階級との团结と日德に進むられることによつて、日共員生や幹部による指導と日德に進むられることによつて、日共員生や幹部による指導されてゐる労働運動がその斗争の中で急速に政治的に発展され、左翼化への傾斜が促進されること極めて恐れてゐる。」

ナラニアの理解において、アロエタリ

革命的労働者は當然、政党の指導を求める。一〇月の労働運動分派が結成され、底面主張に對應される。これが、共産党からの指導は与えられたが、自らも主張はこゝから放棄される。
このよだな状況の中で労働者階級の斗争いか一難千愁化され、一層地で激しく本性があつた争奪ははるか大いに、階級の争奪は各色事態としてさうには三重の争奪、或は井戸端に及ぶ争奪勢。
このよだな時、金田的單一派として温存せられた学生戰線が、革命的前衛分子に捕獲され、しかも二月十六日二十五日未の日和見主やとの斗争の中、幹部を逐る事態に陥り、学生運動の転換の過程が始ったこと、これこそ、反階級の拡張するといふとほつたのだ。
和歌山の斗争、奈良と始めてする通説争奪は、金田の斗争。
全国各地での勤訴阻止の斗争。
かくて反階級の攻撃は、あらゆる勢力を動員して開始された。
六月警察監視會計は、金田連にてての特別委員会と公安請議院が合意し、その「取締り方針」を決定めた。
七月から新聞は、金田連の言葉と統説、日教組とともに並んだ。九・一五斗争の後の反民衆六役会計は、金田連の斗争を檢討し、この対策を立てた。
七月二十九日よりひづかれた临时国会で金田連への抗つとあらゆる攻撃が国民党試員によつてなされていい。
文部省は金田連の特別委員会を名前を冠して通達した。九月一日の後藤島入閣で、半自治会議員が出席当局から通達された。
十一・二・二、日本新潟大学の生田連がカラリストア・イキ開始の僅か一時間後に自治会議員が告示をいた、ノルマの改定は十月一日に階級がその政治的本能によつて、開始した学生運動の轉換の機運を感じたことを物語つてゐる。彼は学生労働者階級への政治的反動的政勢、資本政勢を一齊に行つて、革命的進歩はよみがえり、

(2)

社会主義が國家への侵略戰爭準備過程に於ける各皇帝の主やの位置を明らかにした。

ナントは實質的には平和機謹の手いを張り、半島に偏過させることによって「オーバーマ化」した「オーバー義性」を主張し、曰内に於けるアルジョアジー（小説）によって労働者階級の手いを阻する「中立論」を打破した。

曰内情勢に於いては、階級的視覚を放棄し、「半白領」とか「民族解放」とかいう非マルクス主義的分析法に於いて、現実の階級斗争から全く分離しているドッグをふきとぼし、日本アルジニアの階級支配の状況を明瞭に復活してキテ日本帝國の危険を歴史的に解明し、労働者階級の解放の道とともに、現実の敵階級の攻出の性格及びこれに対する労働者階級の階級的手いの方向を示したのである。

極めて審慎的ではべたこれらの方針は學生運動一全學連の方針

(3)

アーテーの方針にはやはり得ないか、それに拘らず、労働者階級を指導する部分が統計幹部の社会民主主義的色彩を見重き、或いは、日英代々本宣傳の民族主義、右翼日視民主やに影響され、さらに労働運動の最も階級的意識と代表する部分である東同、或いは日共代々木本反対派の大部分も田舎のブルジョアジーフ農田主やの枠を一歩も出ないとして、左派のものにあつては、労働者階級の斗争にとって極めて重要なことであった。

日本の労働者階級は明らかに駄目である。この駄目は、一九四九年からで、たゞとく、日本労働者階級の本質的特徴を理解するうえで、大変有用の参考書である。

左翼連にはほど遠い。
一のよつた労働運動の指導部の状況にあつて青年の分子にあつて指
導される全連の学生運動は、労働運動の軸杆にあつて特殊に重要な
である。すてに和歌山、奈良の斗いに於いて、勤組斗争に於いて、革
命改進反対斗争に於いてその労働運動の發展にこゝで第一歩を踏ま
左役割を果してゐる。
労働者階級は、この学生運動の役割を十分こゝに發揮せねばならぬ。
革命的転換を準備せねばならない。

かうであつたことく、今後の日本の労働運動の発展と長期的に決定するうな重大な大筋をもつてしる。階級斗争の新しい形相の前に、一方運動の指導部はこの軸心を正しくとらえねばならぬ。に鎌倉大会にあらわれた當時民主左派と民右派の意見は、「一つの指標であり」には「これに対する金野派による統一総議会の結成は他の一つの指標である。たゞ統計主派は左派は、その左翼的言辞にも拘らず、あらゆる斗争の激化の際ににおける裏切り戦術によつて労働者階級の斗争を抑しとめ、改良主導者としての姿をますくあらわにし、最近では「その協調主である金井幹部との接糾をもはかるこゝで辞をなす。」これに對して革同派・萬野派は、統計主流の右傾化に反対する革命的労働者らの表現として結集され、現在の階級斗争の中での左翼の役割を果してゐるが、その革命的左翼にも拘らず、革命理論の欠如によって、或はカリモの性格によつて革命的左翼としての役割を果しえず、十分に国民済の政治性に活用してしない。

社会党は、これが右側労働運動の三派(金井、統計主派、萬野派)のよりあいとしての性格以上でない。

しかし評議会幹部は、全学連の本とて自己に轉換し自分の政治的把さ
じ金學連との共斗を相呴しあうといふ動きを始めている。このよ
うな活動は、動評主事の際に明らかになつたが、齊藤幹部反対
事では、全労幹部と交換する(1)にて、金學連を排
除することに一止めだ。

革同一高野派及び金黨青年部は金學連との共斗を強め、民同(4)派
との対決の有力な同盟部隊として認めているが、未だその理論を駁破
しなうとはしていよい。社会党は共産党との共斗と若しく、さうに全
学連との統一行動を懇れ、このことは下部幹員の年次するこゝと打
ちだ。

かく、労働運動の指導者の大流の中で革命化や中立化する労
働者階級の同盟軍としての学生運動と学生運動の方針の問題を審議する
ことに多大の関心を持つと共に、同時に現状階級においては全学連の字
生運動の革命的方針を争付運動相手の日共見金幹部方針と対置する
ことによって労働者大衆の革革命化を促進するのに連用する責任を持つ
ている。やうに労働運動に革命的アロレタリィアートの方針と与えその
影響を拡大しつゝ正規活動を行ふことによつて現在全労連は自らせす
する過度なる革命的後退と軽減せることを憲かねはならない。労働運
動のかゝる転換を図ることもサボタージュして全学連の左翼化を要い
労働運動と学生運動とを反撃させ合い、学生運動を孤立化せること
は敵階級の陰謀と通ずるものであり革革命的アロレタリィアートの仕事と
は縁もゆかりまいことだ。

の爆弾となつて結束した。しかし、この日以来、党内における中左派の一派の代々木官僚への接近も関連して学生運動の中では、高野、牧瀬の日加見主義の潮流が結成され、これに対する非暴力斗争が進むられた。代々木官僚どもが、学生運動における指導部分におけるかかの分派の発生をめがす事はなかつた。

全戻に始まつた党内民主主義のある程度の回復は、代々木官僚に対する爆弾的な党内斗争の開始をよび、二したが、全戻と接する田舎的分子は代々木官僚派の暴行の由で暴力團を形成し、家財強盗暴力による金目的組織力をもつて、「安堵最も力強」いものへとくつた。宮本野坂・春日へ正しらの代々木官僚は、下部院員の激しい責任要求があつて、一方では、過去の青年を志田らにて貢ねせつて、他方では、官僚主義による党内斗争の抑止によつて自らの地位の確保に躍起となつて、いたが、十七回選大會が彼らの命取りとなることと想れてこれを再三にわかつて玉難

シヨウが絶縁に付けていたの。そして、スクリーナーがアルシヨウの絶縁に付けていたの。そして、スクリーナーがアルシヨウの絶縁に付けていたの。

१८४

十三、路線について、実地として、かわりにことから生じた全般的なマルクス主義の危機の中へ進れるが如くして、またマルクス主義の内訳によっては、必ずしも日本社会主義的運動に付随して貢献した。実地と創立の道を確立していく。

しかし、黨内反対派ほどの理解」における「ルシニョウ路線の限界」と、党についての「一枚岩の田舎者」の立派マジノリティの意味で、革命的青年のかかる行動は反対派を抱き、青年共産主義の「暴發」を歓へるのであつた。

四五八年春動員斗争へと、日本資本主義の苦悶が不況の進行へたつてあらわれてトルシヨアバーの資本攻撃と反動攻撃が労働者階級に襲いかかつて階級斗争の現象の由で、それがためられつつ一つた。ソーラト回顧の人工卫星の打ち上げを機会とした「祝金運動」の軍事的使命として一つ一つの現象によつて、階級斗争の現象が、「世界戦」に連づつてゆくのであるから、トルシヨアバーの階級の發展をよりかがりにしたる階級斗争の現象が、全く廢棄した日露貿易主義などしておどされへども、ソーラト、スクリーパー、ダントン、カリヤ事件に動搖したてば、左翼運動が、トルシヨアバーの二つの實質

反対派の主張と結果を見てみると、この事件のアマゾギー的方策的反対派は形骸化されてしまった。かくして、全学連アルーベの革命的分子は、代々木宣彦の攻撃に対して下へとどつた。代々木宣彦の日和見主義的裏切方針と対置された革命的理論と綱領が兎内外大衆に受けないままに、かくて、全学連アルーベは党内外から孤立せられた。實際の攻撃に対する斗いは、党内にあり一時的に敗北せざるところがかった。

日本共産党代々木宣慶にたかがう最左翼を形成しつつあつたのだ。金高連和十一回大會は、まさにかかる階級の大衆化によつて、その階級的意義を有する。代々木宣慶の暴力主義運動は封せられた。革命的學生の共産主義者は、消費的財貨を調達することなく徹底的に内斗へ進んだ。

「暴力事件」として、党内外大變に起つられ、「一大一一小」はまさに以上の如き金高連和の極端内斗論の一環として顕現したのである。この事件は、もし党内反対派として、全學連のブルーと、がこの理論的政治的対立を把握せしめることに成功しならば、日本共産黨の党内斗争の新しい階への成功的移行を達成したもの

学生運動が和歌山斗争の実験的全盛を工口ノリ一回大会以後三ヵ日、代々木の明らかにまだ大家族的攻撃でもがかりうが、何れの動搖、となりどうか一層鮮明な模印を全学連十二回陸運大会で擲げたとき、「代々木不_レ全学連の激突」とジヤーリーズティックな興味を示しながらも、革命的大義反対派の悪性のクスニ、として、代々木官隸の狡猾なかけひきによつてかれらの支配をノア加之されたままに、大金鹿以系の党内斗争の激動軒のや第一次の絶頂の場になつた。かくしてこの口ナリ代々木官隸体制の底に二千の意味がはじまる。すでに前文書(一)で述べたとく、反対派の東京東京都委員会は一連のよどみ開闢し所感派の攻撃化した。これの自當之念が彼らはさらに開闢されとまじめし始めるところだ。R、学生運動の指導权を「奪回」するための必死の策劃を開始した。

このよきな結婚組の期待と供應者部員が主として全学連の組合的アロケーションによる「大・一連社」の政治的影響をいかゞか正しく学びたい所よ。左記は本連の結果といひ廣く大勢の業者を経ていたのである。
しかし、や七八回大会の「成の」というの右の表は、今實際作成確立の上にたつたやう木は、よりよき本腰を入れて、政治的、思想的、組織的破壊工作を始めた。

われわれは「こゝに彼らの「本筋」をくりかえしはしない。しかし、日本学生組織がある程度の影響力を持つれば日本学生運動が現状にあらへ、「これらのやうな本筋の筋道」と、過激運動するなどは繩舟に許されぬ。

われわれが眞に労働者階級の前線としての責任を果たすには
れば、代々不官僚のかかる非常効率的、反革命的な官方式、官能的
一いつ般研究せねばならぬ。

労働運動による革命的ロレッタード用田政院の名を誇りし
たがかる活動によって労働者階級に全要素と学生運動へと活き
うえつけ、革命的學生運動を傷つける行動に対し、労働者階級の方
名にありて公然と非難せねばならぬ。

学生運動による革命的分子の役割は重要である。たゞ革命的言語

鬼の腰痛を以て「第五回大会の決戦を終え」「自己批判書を提出せよ」と責められた。かれらは「全連連を一つのは健全な分子によつて指導されなければならぬのだ」と公言して、全連連のリ工作を終つた。彼らの政治運動に対する對付はいかが、それはさういふ風ふうに思はれてゐるが、事實では如何である。

值しない。批判は、曰く、「エロ・エスケープ」曰く「小市民的逃避主義」を繰り返し曰く「左翼ハ不入り」「少數精英分子の冒險主義」を繰り返し曰く「組織上の修羅場」等々、そして方針は「アルミニウム」と金剛王鬼

卷之三

「いたがく」「日本大學生の事務局長」の「民衆文化」という言葉が、さうして「學生の多數を統一行動に参加させること」「労働者階級へのアピール」――東京新聞紙三編への報道が風貌と精神を示す。春水詩集にもどかしく「キミ」として「教説」との組――宋は学

第一回運動の現状と要領の口述ノリヤー、トモハシヒロシ
つりこの第手の問題

